

一 般 社 団 法 人

石 巻 じ ち れ ん

平成30年度  
事業報告書

# 平成30年度の事業計画にあたって

## 1. 基本方針と重点項目

### 基本方針

石巻じちれんは、前身で組織である「石巻市仮設住宅自治連合推進会」が、仮設団地同士のネットワーク組織として誕生し、『孤独死をなくそう』をスローガンに掲げ、コミュニティリーダーやコミュニティのサポートを主眼として活動してきました。「石巻じちれん」設立後もその意思を引き継ぎ、コミュニティやそのリーダーをサポートし、住民自身が住民の安心できる住環境を作っていくための支援を行なっています。

### 重点項目

#### 1. 仮設住宅

仮設住宅へのサポートは団体名を変えた現在でも、重要な活動の一つとして考えています。平成30年度は石巻市内の復興公営住宅の整備が完了し、仮設住宅も最終フェーズを迎えます。仮設団地では、退去を待つ住民の見守りや、集い場の形成による取り残され感の軽減や安心できる場作りが重要となってきます。

#### 2. 復興公営住宅

復興公営住宅では、入居が早かった団地では入居から5年を迎えますが、仮設から再建していった住民の多くから、「鉄の扉」により、周囲との交流が断絶しているといった声や、団地会という運営手法が不明瞭な組織運営を担わされる負担感、ルール整備がされていないことが足枷となった集い場作りの難しさなどがきかれます。復興公営住宅内での住民の繋がり作りや、復興公営住宅団地間での情報やノウハウの提供による、負担を減らした運営手法の確立が重要になります。

#### 3. 新市街地でのコミュニティ形成、自治活動

当法人が事務所を構えるのぞみ野地区では、3つの町内会が誕生し（2018年4月末日現在）、まもなく町内会の形成もひと段落を迎えます。

しかしながら、石巻市最大の大規模集団移転地であるとともに、多くの復興公営住宅を抱える地域であるという特性上、町内会の形成後もルール作りや行事の進め方の様違いを発端とした人間関係や組織運営の齟齬が生じています。地域の集会所内に事務所を構えているという特性を生かし、相談対応や第三者としての問題解決のサポート、ルール作りのサポート等を通して、新市街地全体で連携し、円滑な住民による自治が行なえる体制を構築します。

#### 4. 地域内のニーズを地域の住民により解決する地域循環の体制構築

新市街地では人間関係が未だ希薄であることから、地域内の困りごとを地域内で解決する、または地域内の困りごとを発見する力が弱く（セーフティーネットの目が粗く）、専門職が対応しなくてはならなくなる前に、住民による課題発見・解決ができる体制や共助的活動による下支えが必要であり、そういった活動に参加するための下地作りが重要である。

## 2. 中・長期の活動方針

当法人の予算の多くは震災復興に関連する予算に紐付いた助成や補助によって成り立っており、2020年度の復興創生期間の終了までに、現在行っている活動のスリム化や、当法人が事務局業務を担う住民組織（集会所運営委員会など）において、組織を住民のみで運営していけるように業務の移管と組織体制の整理を行なっていく。

また、現在の活動を生活支援サービスや、福祉サービス等へ転換し、サービスの対価や事務手数料を徴収していくことで、有償事業化していく。そういった収益の獲得とともに、震災復興に関連する予算に紐付かない助成等に切り替え、復興創生期間後も地域支援団体として活動していくように法人の基盤体制を整備していく。

## 3. 30年度事業報告

### ●新蛇田第一集会所運営委員会サポート●

(石巻市 地域づくりコーディネート事業補助金)



#### 事業目的

新蛇田第一集会所を通じた、戸建と復興住宅、町内会と団地会など、組織の垣根を越えた地域全体の連係体制の構築と、地域全体の共有財産とするための負担割合の制定。

また、運営委員会組織での事業を町内会組織や団地会組織とともに行なうことによって、「のぞみ野地区」に住まう人同士の協働意識を育む。

#### 事業概要

前年度まで新蛇田第一集会所の運営委員会のメンバーは、各復興住宅の代表者から組織され、集会所への負担も復興住宅住民のみが負担をしていた。のぞみ野地区では平成30年度の初頭に町内会形成がひと段落することから、町内会組織を通じて戸建住宅からも運営委員を選定し、集会所への負担金も町内会が設立されている地区は町内会を通じてのぞみ野地区全体の共有財産としての集会所へ負担をしていく合意の形成を行なう。

#### 成果

町内会組織と協議の上で戸建住宅からも運営委員を選ぶことに合意し、運営委員会の組織構成を一新した。それに伴い、集会所への負担金についても町内会と町内会に所属しない団地会からの徴収するかたちにルール改訂するに至った。

また運営委員会が主催し、さまざまな合同の行事を実施し、町内住民が集う場作りを行なったほか、防災訓練を主催し全町内会と団地会から住民が参加し、町内の防災意識の醸成に繋がった。

### ●サークル活動等の立ち上げ、運営サポート●

(石巻市 地域づくりコーディネート事業補助金)

### 事業目的

新市街地の住民が主体的に行なう活動を促進することで、住民自身の活性化と、集い場作りを住民自身が行なえる環境を整備する。

### 事業概要

新蛇田地区で活動するサークルの運営相談や、相談ベースでのサークルの立ち上げ支援等を行ない、住民の自立運営を促すサポートを行なう。

### 成果

活動するサークルの運営支援によって、ルール整備や資金獲得の手段を獲得し、自主運営に繋がった。(5サークル)

## ●集約拠点団地（仮設住宅）でのサロン活動● （宮城県 NPO等の絆力を活かした復興支援事業）



### 事業目的

入居者の少なくなった仮設住宅で住民の集い場づくりを通して、住民同士の繋がり維持と相互の見守り環境、退去して復興住宅に移った際の相談先としてなど、様々なつながりをつくることを目的とする。

### 事業概要

石巻市内の集約拠点団地7カ所（大橋、桃生中津山、河北三反走、飯野川、蛇田西部第二、南境第四、南境第七）での定期的なサロンの開催。

### 成果

2018年度は桃生中津山・南境第四回・南境第七団地で7月まで、河北三反走団地で9月まで、飯野川団地で12月まで実施し、大橋、蛇田西部第二団地では年度末まで、毎週一回サロン活動を実施。延べ2751人が参加した。

入居者の減少や集会所管理者の退去によって集会所が活用されなくなることを防ぐとともに、退去した住民が仮設住宅のサロンに参加することで再建先の困りごとや他地区の復興公営住宅の問題を共有する機会となった。

## ●復興公営住宅ネットワーク推進事業● （宮城県 NPO等の絆力を活かした復興支援事業）



### 事業目的

石巻市内の復興公営住宅に移り住んだ住民の多くは入居から3年~4年を迎えるが、ルールの分かりづらさ、団地毎に結成される団地会の役員への負担感、共益費の違い、自治と管理の区別など、自分達を取り巻く環境の不明瞭さが生活不安となっているケースが多い。

そこで、復興公営住宅の役員やキーマンが地区を超えてノウハウの提供や情報交換をすることで、団地会の運営改善や、ルール制定の参考となり、再建先での課題に住民自身が対応

できる体制の整備に寄与した。

#### 事業概要

石巻市内の復興公営住宅の主要役職者やキーマンを集め、ノウハウの相互提供・情報交換の場作り、または先進事例地への研修。

#### 成果

新蛇田地区と湊地区の復興公営住宅の役員の意見交換会や新蛇田南地区などへの役員のヒアリング、県内他地区事例などへの視察を通して、市内の復興公営住宅の課題が改めて見えてきたとともに、意見交換会などがキーマン同士の関係構築の機会となった。

### ●共助的見守り組織形成支援事業●

(宮城県 NPO等の絆力を活かした復興支援事業)



#### 事業目的

新蛇田地区は新市街地であるがゆえに人間関係が希薄であるとともに、復興公営住宅(市営住宅)を多く抱えているがゆえに、高齢化や社会的支援が必要な住民の増加が予想されている。その為に住民による見守りの強化や見守りの担い手づくりが必要であり、その組織形成と自立運営に向けたサポートを目的とする。

#### 事業概要

認知症サポーターの勉強会を機に発足した住民サークル「つながりパートナー・パル」を持続可能な運営を自立運営のための事務サポートや担い手の裾野を広げる為の広報の支援、スキルアップの為の講習の企画など。

#### 成果

「つながりパートナー・パル」のメンバーがいきいき100歳体操の講習を受講し、認定を受ける。以降、住民自身が機能維持の体操の講師となり、住民の担い手を増やし続けている。

年度末までに「つながりパートナー・パル」の会則を整備するとともに、自走できる体制に整備をあらかじめ完了させる。翌年度早期には運営の自立化が達成可能となった。

### ●新蛇田人材バンク事業●

(宮城県 地域復興支援助成金)



#### 事業目的

新蛇田地区には雑多な住民ニーズの中で、生活支援ニーズ等にスポットをあて、近隣住民で解決していくための体制構築と、余暇時間の活用就労可能年齢者の社会参加の場作りを行なうことで、地域内での持続可能な困りごとの解決の循環を生み出す。

#### 事業概要

新蛇田地区内で登録制のボランティア制度をはじめるとともに、地域内のニーズを調査し

ボランティアとマッチングしていく。また、ボランティアのスキルアップ講習等を行ない対応できるニーズの幅を増やすとともに、地域の人材獲得の広報活動を行なう。

#### 成果

15名のボランティア登録者のなかから、地域の孤食ニーズとのマッチングの結果、ボランティアによって運営される「のぞみ野地域食堂」が誕生した。毎回平均して50名ほどの参加者が集まり、孤食の解決の他に多世代交流の場にもなっている。

### ●新蛇田支援団体ネットワーク形成事業●

(宮城県 地域復興支援助成金)

#### 事業目的

新蛇田地区には雑多な住民ニーズに対応する為、住民では対応できない案件や住民で対応する際の相談先として、様々な支援機関が包括的に地域を見られる環境と、支援機関同士の情報交換を目的とした場の創造を行ない、支援機関同士そして住民が協働できる体制の構築を目指す。

#### 事業概要

新蛇田地区や近隣で活動する支援機関が定例的に情報交換を行なうミーティングを行なう為に、支援機関への声掛けや会議の事務局を行なう。

#### 成果

住民活動と支援機関の協働や、支援機関同士の協働などが生まれ、人材バンク事業に置いても様々な支援機関が協働し、場作りや担い手情報の共有を行なうことで一つの支援機関への負担の偏りや、住民が困った際の相談先の整理が行なえた。

### ●その他の事業●

団体の理念、目的を達成するための事業。

※後発災害の被災地域からの視察の受入や講演など。